

吉村明の みつひかり 栽培日誌 5



吉村明
よしむら あきら
三井化学アグロ(株)
営業本部マーケティング部
ハイブリッドライス種子グループ
グループリーダー

1962年生まれ。1988年 北海道大学大学院農学研究科修了。同年 三井東圧化学(株) (現三井化学) 入社、農業資材開発に従事(北海道工業所勤務)。1996年本社異動後、ハイブリッドライス事業開発を担当。2000年に事業ごと三井東圧農業(株) (現三井化学アグロ) に異動し、現在に至る。17年間「みつひかり」をライフワークに、全国を飛び回る。

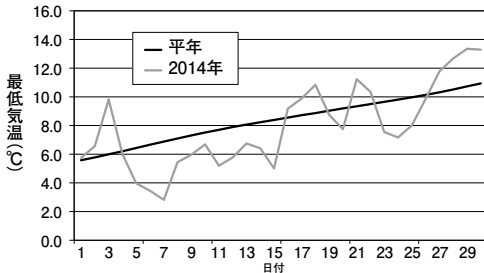
田植えが始まりました！

鹿児島県S市の4月4日を皮切りに、全国各地で「みつひかり」の田植えが始まりました。みつひかりは生育期間が日本一長い稲で、「田植えは早く、刈り取りは遅く」が一般的なパターンです。浅水管理で初期分げつを促進し、有効茎の確保に努めてください。

「順調に育苗開始！」と前号で紹介



写真1：育苗不良の苗箱（手前側）



※気象庁HPデータをもとにみつひかり栽培主要17地域の平均を算出した
図1：4月の最低気温の比較

また、初めて栽培される方から、「こんな汚い種子は初めて見た」とのお叱りの連絡を頂きました。通常の品種の種に比べると外観に違いはありますが、芽さえ出れば問題ありません。今年もいろいろなことが起きそうな予感がします。

「みつひかりプロジェクト」

「みつひかり物語」⑤

2004年から(株)吉野家を最終ユーザーとする「みつひかりプロジェクト」がスタートしました。初年度の(株)神明の集荷目標は3000t。農業団体や米集荷業者に栽培を依頼し、生産者を募ってもらうという従来の普及方式を採りました。ところが、反収12俵でも目標の1割にも満たない約200tの集荷が望める程度の面積しか集まりません。一般の品種であれば、行政と農協が連携して普及しますが、みつひかりは民間品種で実績不足、信用されないことが小面積での栽培となった原因とその当時は思っていました。

栽培は概ね順調、この年は台風が多く上陸、刈り取りの遅いみつひかりへの影響が懸念されましたが大きな被害はなく、強程で倒伏に強いことを証明できました。しかし、この時期、刈り取りのタイミング、節目と品質の関係など、まだ栽培体系も未確立で、収量の低かった生産者から「反収12俵を保証しろ」と声が上がった産地もありました。そんな状況下での船出となりました。同様の普及方式で3年間が経過しましたが、目標3000tの3割に

単位：%

表1：一株の穂からの分析結果の比較

品種名(産地)	格付	整粒	未熟	被害	死米	着色	胴割	碎粒
みつひかり(茨城)	S	81.9	12.5	0.9	0.5	0.0	3.7	0.4
みつひかり(新潟)	S	80.8	14.5	0.2	0.5	0.0	3.1	0.9
みつひかり(大分)	S	90.9	5.5	0.2	0.0	0.0	3.4	0.0
コシヒカリ(三重)	B	73.9	7.4	7.9	0.1	0.0	10.3	0.4
あきだわら(富山)	C	67.2	9.4	10.1	1.4	0.2	11.2	0.5
たちはるか(大分)	B	73.5	7.4	12.3	0.8	0.3	5.2	0.5

※格付：S-A=1等格、B-C=2等格、D以下：3等格
※社内分析データにより(測定機器：静岡製機(株)RS-2000X)

も満たず、コメの実需者がいても広がらないのは事業性がないからと、07年には社内での事業撤退に向けた準備を進めるよう指示がありました。その一方、このプロジェクトさえ大きくなれば事業を継続できるはず、と新たな普及方式の検討を始めました。

時を同じくして(株)吉野家・小内バイヤーが発した「みつひかりって本当に割れないよね」(表1)の一言がその後のみつひかりの栽培体系を大きく変えることになるのです。



栽培のポイント⑤

前号までに生育初期の管理について述べました。目標穂数の3000本

やや遅めの強い中干しで、倒伏に強い稲に

生産者インタビュー

「みつひかり」は 直播向き!?



藤平正一さん

今年でみつひかり栽培8年目を迎える千葉県I市の(株)新田野ファーム(藤平正一社長)。栽培のきっかけは耕作面積が80haを超え、晩生品種を栽培して刈り取り時期を分散する必要に迫られたため。みつひかりの収量・作業性には満足するものの、寒い時期のみつひかり育苗は苦勞が絶えず、安定した栽培体系確立が急務だった。

そこで、3年前より、育苗の要らない直播栽培として「鉄コーティング種子のラジヘリ播種」(協力: ヤンマーアグリジャパン(株)関東甲信越カンパニー)に挑戦し、2年連続で反収12俵を実現した。「田植えまでに生育を揃えなければならない育苗より、直播の方がみつひかりには合っているかも」と話す。今年のみつひかりの直播は約3ha、年々割合が増え、生産コスト削減にもつながっている。



鉄コーティング種子のラジヘリ播種の様子

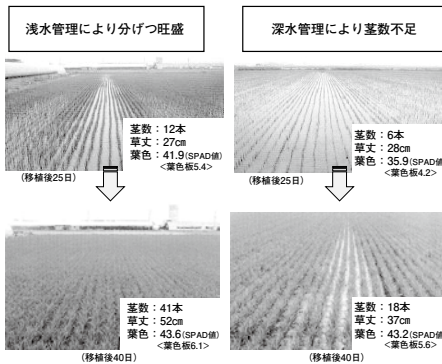


図2: みつひかり栽培のポイント
(初期生育の確認～中干し)

㎡を確保するには坪60株植えを推奨しています。通常の圃場では「耕盤」がしっかりとあります。いつまでも水があると耕盤の上で根が止まり、大型の稲を支える土台が浅く重心が高くなり、倒伏の危険が高まります。強い中干しを行なうことで、耕盤がある圃場でも水を求めて根が地中深く入っていく、倒伏に強い稲をつくります。しかし、強い中干しは、穂になり得る有効茎を抑えてしまふ傾向にあります。そのため、疎植にし過ぎず、面積当たりの穂数を確保(＝収量確保)するように、とお話しています。

- 移植後の栽培管理のポイントとしては4つあります。
- ① 浅水管理で初期分けつを促進します。田植え時期・圃場条件によりますが、有効茎を確保できるのは移植後30～45日まで。その後の分けつは無効茎となり、収量増にはつながりません。深水にしておく分けつが進まず、穂数不足の原因となります(図2)。
 - ② 移植後10～14日経過しても分けつが増えてこない場合は肥料不足でないか確認してください。肥料不足の場合は、硫酸などで早めに分けつ肥を施用してください。
 - ③ 葉の枚数が3枚以上ある茎が必要穂数(前号参照)に達したら中干し開始。入水まで完全に干し上げて構いません。中干しが早過ぎると有効となる穂も消してしまふ可能性がありませぬので、ご注意ください。
 - ④ 中干し後の入水開始は幼穂形成が始まるころ。入水が早いと下位節を伸ばす原因となります(次号参照)。

協力:
三井化学アグロ株式会社 営業本部 マーケティング部
ハイブリッドライス種子グループ
〒105-7117 東京都港区東新橋1-5-2
汐留シティセンター
TEL: 03-3573-9869 FAX: 03-3573-9891

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)防除ポイント

- ジャンボタニシとは……
ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)は移植直後の稲を食害し、西南暖地の稲作に少なからぬ被害を与えています。ジャンボタニシは外来生物で、1981年に食用目的で台湾から長崎・和歌山両県に導入され、わずか2年後の83年には35府県に養殖場が拡大しました。ところが、食味の問題で市場に受け入れられず放置されたため、移植直後の稲を食い荒らす有害動物として西日本を中心に生息域を拡大し、定着してきました。2011年の発生面積は約10万haと推測され、全体の6割を占める九州では横ばい状態ですが、本州では瀬戸内や太平洋岸の低地で拡大傾向にあります。
- ジャンボタニシの効果的な防除方法
ジャンボタニシの水田での定着は越冬できるかどうかにかかっており、積雪が分布拡大の制限要因となっている可能性があり、山地、

日本海側では問題化していません。被害を及ぼすのは殻高2cm以上の貝が主体で、稲の生育が進むと被害を受けにくくなるため、稚苗移植の場合は移植後2～3週間までが防除の必要な期間となります。貝は稲の葉身を水中に取り込んで食害します。水深が浅いと加害できず、また身動きも取れなくなるため、水のある所に移動する傾向があり、結果的に水深の深いところに被害が集中することになります。スクミンベイト®3は、米国では食品添加物として使用される磷酸第二鉄(3%)を有効成分とするベイト剤で、有機JASでも使用が認められている薬剤です。スクミンベイト®3を2～4kg/10a処理することにより、摂食後直ちに食害を抑え、殺害効果も期待できます。また、有効成分は水に不溶のため、オーバーフロー等による水系への流出リスクも低く、水生生物等への影響も少ない薬剤です。
※スクミンベイト®はドイツ・W・Neudorff社の登録商標(殺虫剤グループ)